

JENESYS2.0及び北米地域との青少年交流

韓国教員訪日研修団第1団・第2団

訪問日程 平成25年5月14日(火)～5月23日(木)

1 プログラム概要

韓国内の若手小学校教員で構成された韓国教員訪日研修団第1団・第2団の計40名が来日し、5月14日から23日までの9泊10日の日程で研修を行いました。

(1 団団長:韓哲洙(ハン・チョルス)ソウル永文初等学校校長、2 団団長:宋秉一(ソン・ビョンイル)上炭初等学校校長)

本事業は平成25年度の事業である「JENESYS2.0」の一環として行われ、「日本を感じる」という研修テーマの下、日程中はホームステイや小学校訪問を通じた交流、相撲観戦や着物着付け体験などの伝統文化を体験しました。

2 日程**5月14日(火)**

成田国際空港着、研修ブリーフィング

15日(水)

講義、歓迎昼食会、外務省訪問

16日(木)

小学校訪問(1 団:江東区立有明小学校、2 団:中央区立中央小学校・明正小学校)、江戸東京博物館見学、大相撲五月場所観戦

17日(金)

東京都教育相談センター訪問、浅草見学

18日(土)

1 団:愛知県へ移動(トヨタ産業技術記念館、名古屋城見学)

2 団:埼玉県へ移動(人形の東玉・人形の博物館、盆栽博物館見学)

ホームステイ対面式

19日(日)

終日ホームステイ(1 団:着物着付け・茶道・華道体験、歓迎交流会)

20日(月)

小学校訪問(1 団:一宮市立三条小学校、2 団:さいたま市立常盤北小学校)

21日(火)

京都へ移動、日本文化体験(1 団:和菓子作り体験、2 団:着物着付け体験)、清水寺見学

22日(水)

コクヨショールーム大阪見学、お好み焼き体験、食品サンプル作成体験、大阪市内見学、感想報告会

23日(木)

関西国際空港より出国

3 写真

| | |
|---|--|
|  |  |
| (日本語) 5月16日 第1団 小学校訪問 (江東区立有明小学校) (都内) | (日本語) 5月16日 第2団 小学校訪問 (中央区立中央小学校・明正小学校) (都内) |
| (母国語) 5월 16일 제1단 초등학교방문 (코토구립 아리아케 초등학교) (도내) | (母国語) 5월 16일 제1단 초등학교방문 (츄오구립 츄오 초등학교, 매이쇼 초등학교) (도내) |
|  |  |
| (日本語) 5月17日 教育関連施設訪問 (母国語) 5월 17일 교육관련시설방문 (토쿄도 교육 상담 센터) (도내) | (日本語) 5月17日 教育関連施設訪問 (母国語) 5월 17일 교육관련시설방문 (토쿄도 교육 상담 센터) (도내) |

(プログラム概要報告フォーマット)

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>(日本語) 5月19日 1団 茶道体験 (愛知県稲沢市)</p> | <p>(日本語) 5月19日 1団 歓迎交流会 (愛知県稲沢市)</p> |
| <p>(母国語) 5월 19일 1단 다도체험 (아이치현 이나자와시)</p> | <p>(母国語) 5월 19일 1단 환영교류회 (아이치현 이나자와시)</p> |

| | |
|--|---|
|  |  |
| <p>(日本語) 5月20日 1団 小学校訪問 (一宮市立三条小学校)(愛知県一宮市)</p> | <p>(日本語) 5月20日 2団 小学校訪問 (さいたま市立常盤北小学校)(さいたま市)</p> |
| <p>(母国語) 5월 20일 1단 초등학교 방문 (이치노미야시립 산조 초등학교)(아이치현 이치노미야시)</p> | <p>(母国語) 5월 20일 2단 초등학교 방문 (사이타마 시립 토키와 기타 초등학교) (사이타마시)</p> |

4 参加者の感想

(参加者の感想をまとめたものを記載)

◆印象的だったこと

○ホームステイに関して

- ・ホスト家庭の方と沢山話をして、現地の方の感情に触れることができた、

- ・ 小さな田舎町でも、世界に関心を持ち明るく開放的な気持ちで外国人を受入れてくれた
- ・ 日本人のゆとり、親切さ、サービス精神、先端科学技術、文化財保護精神を見習いたい
- ・ 韓国への恋しさを解消するに十分な「情」のイベントだった
- ・ 日本人の性分や生活風景を知るのに大いに役立った
- ・ 最初はホームステイ体験が一番気がかりだったが、終えてみて今後の研修にも必ず必要だと感じた
- ・ ホームステイを通じて在日韓国人の生活を理解することができた
- ・ 見返りを求めない親切心に心が清らかになり、まるで自然が与えた恩恵を経験した後の豊かな気持ちのようだ
- ・ 仲睦まじい家庭の中で情を感じ、たとえ意思疎通が完璧でなくても一緒に過ごす時間を共有することで心の壁を取り壊すことができた
- ・ ホスト家庭が韓国に対して関心が高かったことに、驚いた
- ・ ホスト家庭が名刺に、太極旗を背景にした写真を入れていたことが印象的だった
- ・ 日本人の生活と意識など、暮らしの一部を詳しく知ることができた

○伝統、文化に関して

- ・ 歌舞伎を見に行った際、立ち見席の方が数時間の講演にもかかわらず、終始幸せそうな表情で真剣に観覧していた姿
- ・ 古くからの伝統を継続して維持していこうとする姿勢を見習いたい
- ・ 様々な体験を通じて日本文化の理解が増進した
- ・ 日本の伝統歴史文化に触れる機会があり、繊細さや情緒、意識、伝統文化の継承について誇りを持っている姿を見られたこと。
- ・ すべての文化体験で伝統の真髄を感じた。
- ・ 自国の文化を守り、発展させていこうとしている姿に感銘を受けた。
- ・ 伝統に誇りを持ち、守っていこうとする姿がとても印象的。
- ・ 地方ごとに特色のある神社、寺、祭りなどを見て日本人たちがどれほど伝統を大切に、愛しているか知ることができた。日本的なことに一番感動した。
- ・ 着物を着て神社を歩いた経験はとても印象的だった。

○日本の小学校訪問について

- ・ 先生の指導に一生懸命耳を傾けて学んでいる生徒の姿に感動した
- ・ きれいな学校（建物）、規則正しく整然とした学生の姿
- ・ 三条小学校での授業は決して忘れることのできない意味のある思い出になった
- ・ 日本教育で見習うべき点が多かった
- ・ 日本教育の現状と、将来追及していこうとする教育の方向を垣間見ることができた
- ・ 日本の学生の授業態度や基本の生活習慣は本当に印象的だった
- ・ 基礎基本に忠実な教育方針。
- ・ 事前に韓国について学生たちに学ばせるなどの徹底さ。

- ・ 学生たちの食事マナーの良さ。
- ・ 先生と生徒の明るい様子を見て気分がよかったこと。
- ・ 基礎を重視し、数学に関しては特にほとんど 1:1 授業のように子供たちを指導していた様子が印象的で、視線を合わせて行う授業に取り組みなくてはならないと、改めて考えさせられた。

○人間性について

- ・ 真似事ではなく心から友達になろうとしている姿に信頼感を覚えた。
- ・ とても暖かく接してくれた
- ・ 親切で思いやり深い日本人の姿に感動した
- ・ 東日本大震災の後も揺るぎなく、継続して発展を重ねながら平和で幸せに暮らしている点
- ・ 道を尋ねると、聞いた方が申し訳なくなるほど親切だった
- ・ 親切で勤勉な日本人の性格に触れるにつけ、今後の日本の未来は明るいと思った。
- ・ どこに行っても明るく礼儀正しい国民性。
- ・ 秩序があって相手に対する思いやりが深いこと。
- ・ 勤勉で秩序正しい姿を見て、なぜ日本が世界の経済大国、豊かな国になれたか知ることができた。

○その他

- ・ 食品サンプル作りが楽しかった
- ・ コクヨ訪問で、文具を製作する際のアイデアやそれを実現化する過程について詳しく聞けて良かった
- ・ 教育相談センターの話聞いて、現代の韓国と日本の相談問題に一番大きな違いはあるが、全く次元の違うものではなく、校内暴力問題など学校側の対応方法を誤れば、韓国でも起こりうる未来の問題なのだと感じた。
- ・ よく整備された日本の生活環境
- ・ 行く先々で対応してくれた関係者が、自分の業務に忠実だったこと
- ・ ごみ分別の徹底など、環境問題についての対応も見習うべきだと感じた

◆自国の人に伝えたいこと

- ・ 自国の文化に自負心を持ち、伝統を後世に受継ぐべく記録し維持している姿勢
- ・ 今回の研修を通じて知った日本の新たな面や、日本人の温かさ
- ・ 日本人の職業精神と、人を思いやる心、親切なところなど韓国の学生が必ず見習えるよう伝えたい
- ・ 日本の文化全般と、日常生活、日本の学校、学生生活、伝統文化と芸術（歌舞伎・相撲・着物など）、日本の教育
- ・ 先進的な文化を学べる機会のもてたのがよかった。韓国に帰って伝えたい。

(プログラム概要報告フォーマット)

- ・教師として学校訪問・視察して学んだことを同僚に知らせたい。
- ・訪問前はいい感情を持っていなかった日本だったが、実際に来てみて、よい隣人だということになり、次回は家族とともに訪れたいと思った。
- ・政治的・民族的な問題と民間交流を混同してはならず、草の根レベルではいい交流関係を維持していきたい。
- ・漠とした抵抗感をもっていたのだが、実際に日本を肌で感じてから心が開けていくのを感じ、それを帰国して伝えたいと思った。
- ・不景気であるはずなのに、学校の教師、学生、ホームステイのホスト、店の店員、現地のガイド、日韓文化交流基金の関係者、道行く人皆が、不機嫌そうに眉間にしわを作っているところを見たことがないのに驚き、自国の人々に伝えたいと思った。
- ・歴史のせいで漠然とした憎しみをもっている人たちに日本のすばらしい姿を知らせたい。
- ・学生たちには日本の素晴らしい文化と国民性について話してやりたい。
- ・過去に侵略してきた国、という印象しかなかったが、個人旅行では体験しえない多様な経験をできたこと。
- ・日本と韓国は手を取り合って行ける国同士であるということ。
- ・子供たちに日本の長所を伝え、日本に対する間違った先入観を捨てるように指導していきたい。
- ・両国がお互いに理解し一緒に努力することでお互いに成長できるということを伝えたい。